

国土数值情報（過疎地域）

製品仕様書

第 4.0 版

平成 29 年 3 月

国土交通省国土政策局

【改訂履歴】

版	更新日	改訂内容
第 3.0 版	2010 年 3 月	地理情報標準プロファイル (JPGIS) のバージョンアップに伴う改訂
第 3.1 版	2011 年 3 月	GML 形式への変換作業に伴い、全体の見直しを実施
第 4.0 版	2017 年 3 月	平成 28 年度データ作成に伴う改訂

目次

1 概覧.....	1
1.1 空間データ製品仕様書の作成情報.....	1
1.2 目的.....	1
1.3 適用範囲.....	1
1.4 引用規格.....	2
1.5 用語と定義.....	2
1.6 略語.....	2
1.7 参考資料.....	2
2 適用範囲.....	3
2.1 適用範囲識別.....	3
2.2 階層レベル.....	3
3 データ製品識別.....	3
3.1 製品仕様識別.....	3
4 データ内容および構造.....	4
4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書.....	4
4.1.1 国土数値情報応用スキーマパッケージ.....	4
4.1.2 指定地域パッケージ.....	5
4.1.3 過疎地域パッケージ.....	6
4.1.4 共通パッケージ.....	11
4.2 空間スキーマプロファイル.....	11
4.3 時間スキーマプロファイル.....	11
5 参照系.....	11
5.1 座標参照系.....	11
5.2 時間参照系.....	11
6 データ品質.....	12
7 データ製品配布.....	15
7.1 配布書式情報.....	15
7.2 配布媒体情報.....	15
8 メタデータ.....	16
付属資料	
1 符号化仕様作成のためのタグ一覧.....	1
2 符号化仕様.....	2

1 概覧

1.1 空間データ製品仕様書の作成情報

本製品仕様書の作成に関する情報は以下のとおりとする。

- 空間データ製品仕様書の題名：国土数値情報（過疎地域）製品仕様書 第 4.0 版
- 日付：2017 年 3 月 15 日
- 作成者：国土交通省 国土政策局 国土情報課
- 言語：日本語
- 分野：指定地域
- 文書書式：PDF

1.2 目的

国土数値情報は、国土形成計画，国土利用計画などの国土計画の策定や実施の支援のために作られたものであるが，各分野で広く利用されることも想定している。

本データは，過疎地域対策緊急措置法，過疎地域振興特別措置法，過疎地域活性化特別措置法，過疎地域自立促進特別措置法に基づき過疎地域について，範囲（面），区分，指定日等を整備したものである。

1.3 適用範囲

本製品仕様書が適用されるデータの適用範囲は以下のとおりである。

- 空間範囲
 - 日本全国
- 時間範囲
 - 2016 年度 (平成 28 年度)

1.4 引用規格

本製品仕様書は以下の規格から引用する。

- 地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第 2.1 版 平成 21 年 5 月

1.5 用語と定義

本製品仕様書で使用される専門用語とその定義は、以下の資料に従う。

- 地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第 2.1 版「附属書 5 (規定) 定義」
- 国土交通省国土政策局 GIS ホームページ ガイダンス
URL : <http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/gis/guidance/index.html>

1.6 略語

本製品仕様書で使用される略語は、以下のとおりとする。

- JPGIS Japan Profile for Geographic Information Standards
- JMP Japan Metadata Profile
- UML Unified Modeling Language

1.7 参考資料

国土数値情報で使用されるコードリスト等については、以下のサイトを参照。

国土数値情報ダウンロードサービス

URL : <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>

2 適用範囲

本製品仕様書の適用範囲は次のとおりとする。

2.1 適用範囲識別

国土数値情報（過疎地域）製品仕様書第 4.0 版適用範囲

2.2 階層レベル

データ集合

3 データ製品識別

3.1 製品仕様識別

本製品仕様書に基づくデータ製品の識別は、次のとおりとする。

- 空間データ製品の名称
国土数値情報（過疎地域）データ
- 日付
2017 年 3 月 15 日
- 問合せ先
国土数値情報提供サイト運営事務局
URL: <http://nlftp.mlit.go.jp/inquiry.html>
- 地理記述
全国

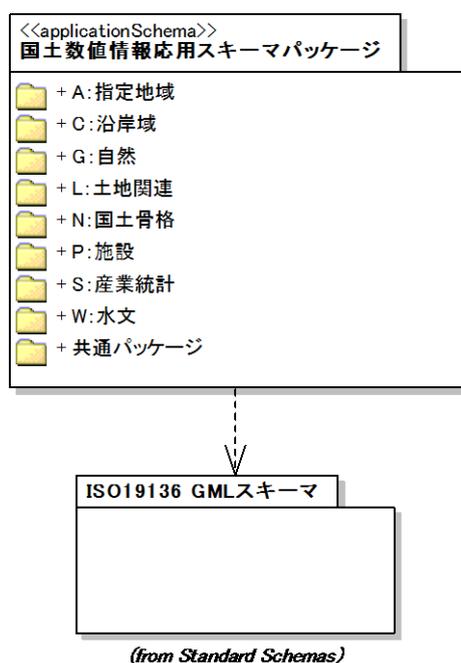
4 データ内容および構造

本章では、本製品仕様書が扱う国土数値情報に関する UML クラス図および定義文書を記す。

4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書

4.1.1 国土数値情報応用スキーマパッケージ

このパッケージは、国土数値情報応用スキーマを構成する各パッケージの依存関係を示したものである。国土数値情報応用スキーマは、国土数値情報を分類したパッケージと、国土数値情報応用スキーマで共通に使用するコードリスト等をまとめた共通パッケージより構成される。国土数値情報応用スキーマに含まれる地物およびメッシュは、指定地域や沿岸域等のカテゴリにおいて定義される。



4.1.2 指定地域パッケージ

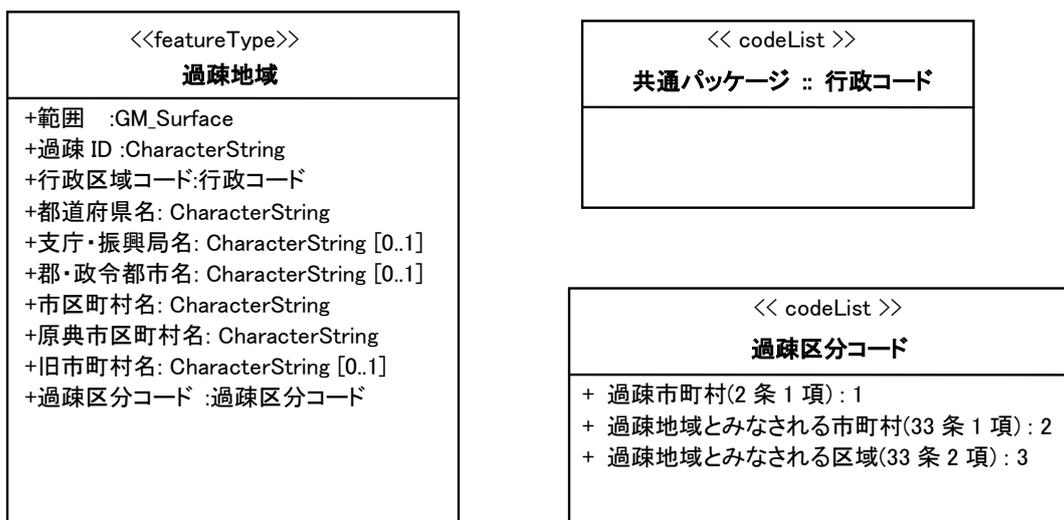
このパッケージは、指定地域に関するパッケージをまとめたものである。

<<applicationSchema>> A02-a: 指定地域 3 次メッシュ	<<applicationSchema>> A02-b: 指定地域細分メッシュ	<<applicationSchema>> A03: 三大都市圏計画区域
<<applicationSchema>> A05: 森林・国有林メッシュ	<<applicationSchema>> A07: リゾート法指定地域	<<applicationSchema>> A09: 都市地域
<<applicationSchema>> A10: 自然公園地域	<<applicationSchema>> A11: 自然保全地域	<<applicationSchema>> A12: 農業地域
<<applicationSchema>> A13: 森林地域	<<applicationSchema>> A15: 鳥獣保護地域	<<applicationSchema>> A16: 人口集中地区
<<applicationSchema>> A17: 過疎地域	<<applicationSchema>> A18: 半島振興対策地域	<<applicationSchema>> A19: 離島振興対策実施地域
<<applicationSchema>> A20: 奄美諸島	<<applicationSchema>> A21: 小笠原諸島	<<applicationSchema>> A22: 豪雪地域
<<applicationSchema>> A23: 特殊土壌地帯	<<applicationSchema>> A24: 振興山村	<<applicationSchema>> A25: 特定山村地域
<<applicationSchema>> A26: 土砂災害危険箇所	<<applicationSchema>> A29: 用途地域	<<applicationSchema>> A33: 土砂災害警戒区域
<<applicationSchema>> A39: 密集市街地		

4.1.3 過疎地域パッケージ

このパッケージは、過疎地域に関する内容をまとめたものである。

4.1.3.1 応用スキーマクラス図



4.1.3.2 応用スキーマ文書

過疎地域

過疎地域は、次の法に基づき地域指定された市町村および旧市町村の区域とする。

過疎地域対策緊急措置法（昭和 45 年 4 月 24 日法律第 31 号） 第 1 条

この法律は、最近における人口の急激な減少により地域社会の基盤が変動し、生活水準及び生産機能の維持が困難となっている地域について、緊急に、生活環境、産業基盤等の整備に関する総合的かつ計画的な対策を実施するために必要な特別措置を講ずることにより、人口の過度の減少を防止するとともに地域社会の基盤を強化し、住民福祉の向上と地域格差の是正に寄与することを目的とする。

過疎地域振興特別措置法（昭和 55 年 3 月 31 日法律第 19 号） 第 1 条

この法律は、人口が著しく減少したことにより地域社会の機能が低下し、生活水準及び生産機能が他の地域に比較して低位にある地域について、生活環境、産業基盤等の整備に関する総合的かつ計画的な対策を実施するために必要な特別措置を講ずることにより、これらの地域の振興を図り、もって住民福祉の向上、雇用の増大及び地域格差の是正に寄与することを目的とする。

過疎地域活性化特別措置法（平成 2 年 3 月 31 日法律第 15 号） 第 1 条

この法律は、人口の著しい減少に伴って地域社会における活力が低下し、生産機能及び生活環境の整備等が他の地域に比較して低位にある地域について、総合的かつ計画的な対策を実施するために必要な特別措置を講ずることにより、これらの地域の活性化を図り、もって住民福祉の向上、雇用の増大及び地域格差の是正に寄与することを目的とする。

過疎地域自立促進特別措置法（平成 12 年 3 月 31 日法律第 15 号） 第 1 条

この法律は、人口の著しい減少に伴って地域社会における活力が低下し、生産機能及び生活環境の整備等が他の地域に比較して低位にある地域について、総合的かつ計画的な対策を実施するために必要な特別措置を講ずることにより、これらの地域の自立促進を図り、もって住民福祉の向上、雇用の増大、地域格差の是正及び美しく風格ある国土の形成に寄与することを目的とする。

上位クラス：

抽象/具象区分：具象

属性

範囲：GM_Surface

区域の範囲。

■ 定義域

法で指定された区域。

■ 取得基準

原典資料が作成された時点の行政区域単位で、指定区域を取得する。

過疎 ID：CharacterString

過疎地域を一意に識別するためのコード。

■ 定義域

5 桁の文字列。

■ 取得基準

都道府県コード 2 桁と、都道府県内で重複のしない連番 3 桁からなる。

行政区域コード：行政コード

都道府県コードと市区町村コードからなる、行政区を特定するためのコード。

JIS 規格（JIS X 0401, JIS X 0402）に準拠する。

■ 定義域

JIS 規格が定める 5 桁のコード値。

都道府県名：CharacterString

データ整備時点の当該区域を含む都道府県名称。

■ 定義域

データ整備時点の日本国内の都道府県名称。

支庁・振興局名：CharacterString [0..1]

データ整備時点の当該区域を含む北海道の振興局の名称。

■ 定義域

データ整備時点の北海道の振興局の名称。

郡・政令都市名：CharacterString [0..1]

データ整備時点の当該区域を含む郡・政令都市名称。

■ 定義域

データ整備時点の日本国内の郡・政令都市名称。

市区町村名 : CharacterString

データ整備時点の当該区域を含む市区町村名称。

■ 定義域

データ整備時点の市区町村名。

原典市区町村名 : CharacterString

原典資料が作成された時点の当該区域を含む市区町村名称。

■ 定義域

原典資料が作成された時点の郡名・市区町村名。

■ 取得基準

原典資料が作成された時点で該当範囲が所属していた市区町村の名称。

原典資料で「郡市名」に記載された市名、または「郡市名」に記載された郡名と「町村・区域名」に記載された町村名。

「町村・区域名」の記述のうち、旧町村の区域に関する記載は除く。

例)

郡市名	町村・区域名	原典市町村名
函館市		函館市
岩見沢市	旧北村、旧栗沢町の区域	岩見沢市
石狩郡	新篠津村	石狩郡新篠津村
中川郡	幕別町のうち旧忠類村の区域	中川郡幕別町

旧市町村名 : CharacterString [0..1]

原典資料に旧市町村名で記される当該区域の名称。

■ 定義域

原典資料に記載された、原典資料作成時点ですでに「旧」となっていた市町村名。

■ 取得基準

原典資料の「町村・区域名」の記載のうち、旧町村の区域を示す部分。複数の場合は列記する。

例)

郡市名	町村・区域名	旧市町村名
函館市		
岩見沢市	旧北村、旧栗沢町の区域	北村、栗沢町
石狩郡	新篠津村	
中川郡	幕別町のうち旧忠類村の区域	忠類村

過疎区分コード：過疎区分コード

■ 定義域

根拠条文に基づく過疎地域の区分。

■ 取得基準

1～3のいずれか。各値は以下を参照。

コード	対応する内容	適用条文
1	過疎市町村	法の規定に基づき過疎地域として公示された市町村
2	過疎地域とみなされる市町村(33条第1項)	過疎地域自立促進特別措置法 33条第1項の規定に基づき、廃置分合等により過疎地域とみなされる市町村の区域として公示された市町村
3	過疎地域とみなされる区域(33条第2項)	過疎地域自立促進特別措置法 33条第2項の規定に基づき、市町村合併により過疎地域とみなされる区域として公示された区域

4.1.4 共通パッケージ

このパッケージは、国土数値情報応用スキーマで共通に使用するコードリスト等をまとめたものである。

コードリスト等については、本製品仕様書「1.7 参考資料」の参照先を参照。

4.2 空間スキーマプロファイル

国土数値情報の空間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第2.1版 空間スキーマ」を採用する。

4.3 時間スキーマプロファイル

国土数値情報の空間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第2.1版 時間スキーマ」を採用する。

5 参照系

5.1 座標参照系

参照系識別子 : JGD2011 / (B, L)

5.2 時間参照系

参照系識別子 : GC / JST

6 データ品質

品質要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	過疎地域
データ品質評価尺度	データ集合と、参照データ同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合内に存在する過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。 次の場合エラーとする。 ・対応関係がとれない地物がデータ集合内に存在する場合。 ・データ集合内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。本体を除き、重複している余分なデータの個数をすべてエラーとして数える。 誤率 (%) = (過剰なデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数) × 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。 誤率=0% であれば“合格” 誤率>0% であれば“不合格”
適合品質水準	過剰なデータの割合：0%

品質要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	過疎地域
データ品質評価尺度	データ集合と、参照データ同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合から漏れているデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。 次の場合エラーとする。 ・参照データと対応すべき地物インスタンスが、データ集合内に存在しない場合。 誤率 (%) = (漏れのデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数) × 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。 誤率=0% であれば“合格” 誤率>0% であれば“不合格”
適合品質水準	データの漏れの割合：0%

品質要素	論理一貫性・書式一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合の書式（フォーマット）が、整形式となっていない箇所（XML 文書の構文として正しくない箇所）の割合（誤率）を計算する。データ集合は、整形式の XML 文書（Well-Formed XML）でなければならない。
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 データ集合のファイルの書式が XML の文法（構造）に適合しているか、検査プログラムによって評価する。 一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
適合品質水準	XML 文書の構文のエラーの個数：0 個

品質要素	論理一貫性・概念一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	<p>符号化仕様が規定する XML スキーマに対する、データ集合に存在する矛盾の割合（誤率）を計算する。データ集合は、妥当な XML 文書（Valid XML document）でなければならない。</p> <p>XML スキーマに対する XML 文書の妥当性の検査に加え、次の項目についても検査する。</p> <p>■地物に関する検査項目 地物インスタンスの型（地物型）が、応用スキーマが規定する地物型と合致しない場合エラーとする。</p> <p>■空間スキーマプロファイルに関する検査項目 データ集合内のどの地物インスタンスからも参照されない幾何要素が存在する場合、エラーとする。</p>
データ品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <p>応用スキーマを表現する XML スキーマとデータ集合に矛盾がないか、検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p>
適合品質水準	符号化仕様の XML スキーマに対する矛盾の個数：0 個

品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	<p>地物属性インスタンスの値が、応用スキーマに規定される定義域の範囲に含まれていない場合、その個数をエラーとして数え、その割合（誤率）を計算する。</p> <p>一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p>
データ品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <p>属性の値が、主題属性の定義域並びに地物の空間及び時間範囲の定義域の中にあるか、検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p>
適合品質水準	地物属性の定義域一貫性のエラーの個数：0 個

品質要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	<p>地物属性インスタンスの図形同士の関係（“離れている”，“接している”，“重なっている”，“一致している”，“含んでいる”）が正しくない場合、その個数をエラーとして数え、その割合（誤率）を計算する。</p> <p>一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p>
データ品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <p>位置の関係の一貫性が保たれているか、目視もしくは検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p>
適合品質水準	地物属性の位相一貫性のエラーの個数：0 個

品質要素	位置正確度・絶対または外部正確度
データ品質適用範囲	過疎地域
データ品質評価尺度	データ集合の位置の座標と、参照データ（”原典資料名”に記載された資料）の座標との誤差を測定する。
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 位置の座標と参照データの座標との誤差を測定する。データと参照データは一致すること。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
適合品質水準	地物属性の位置正確度のエラーの個数：0個

品質要素	主題正確度・分類の正しさ
データ品質適用範囲	過疎地域
データ品質評価尺度	データ集合と、参照データ同士の一対一の比較を行い、データ集合内に存在する誤った地物属性インスタンス（エラー）の割合（誤率）を計算する。 誤率（%）＝（地物属性のエラー数／検査した地物属性の総数）×100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 誤率＝0% であれば“合格” 誤率＞0% であれば“不合格”
適合品質水準	主題属性のエラーの割合：0%

品質要素	主題正確度・非定量的属性の正しさ
データ品質適用範囲	過疎地域
データ品質評価尺度	データ集合と、参照データ同士の一対一の比較を行い、データ集合内に存在する誤った地物属性インスタンス（エラー）の割合（誤率）を計算する。 誤率（%）＝（地物属性のエラー数／検査した地物属性の総数）×100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 誤率＝0% であれば“合格” 誤率＞0% であれば“不合格”
適合品質水準	非定量的な主題属性のエラーの割合：0%

7 データ製品配布

7.1 配布書式情報

■ 書式名称

JPGIS 第 2.1 版 附属書 12 (規定) 地理マーク付け言語 (GML)

■ 符号化仕様

国土数値情報応用スキーマの XML Schema は、JPGIS 第 2.1 版 附属書 12 の符号化規則に従う。また、国土数値情報応用スキーマが参照する基本データ型スキーマ、空間スキーマ、時間スキーマ等の標準スキーマの XML Schema は、次の URL に掲載されている XML Schema を使用する。

http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO_19136_Schemas/

国土数値情報 (過疎地域) 応用スキーマの XML Schema で使用する名前空間および名前空間接頭辞は次のとおりとし、XMLSchema については付属資料を参照のこと。

名前空間 : <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app>

名前空間接頭辞 : ksj

■ 文字集合

UTF-8

■ 言語

日本語を使用する。

7.2 配布媒体情報

■ 単位

全国

■ 媒体名

下記サイトよりダウンロード。下記サイトでは、国土数値情報を無償で一般公開している。

国土数値情報ダウンロードサービス (JPGIS 準拠データ)

URL : <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>

8 メタデータ

本製品仕様書のメタデータは、**JMP2.0**を採用する。

国土数值情報（過疎地域）製品仕様書 第 4.0 版

付属資料

1 符号化仕様作成のためのタグ一覧

	クラス	属性・関連役割	型	タグ名	英語名(属性・関連役割のみ)
指定地域					
	A17: 過疎地域				
	過疎地域			UnderpopulatedArea	underpopulated area
		範囲	GM_Surface	bounds	bounds
		過疎 ID	CharacterString	underPopulationId	under population id
		行政区域コード	行政コード	administrativeAreaCode	administrative area code
		都道府県名	CharacterString	prefectureName	prefecture name
		支庁・振興局名	CharacterString	subPrefectureName	sub prefecture name
		郡・政令都市名	CharacterString	govDecreedCityName	government-decreed city name
		市区町村名	CharacterString	cityName	city name
		原典市区町村名	CharacterString	orgCityName	original city name
		旧市町村名	CharacterString	formerCityName	former city name
		過疎区分コード	過疎区分コード	depopulatedTypeCode	depopulated type code

2 符号化仕様

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xsd:schema xmlns:ksj="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app"
xmlns:gml="http://www.opengis.net/gml/3.2" xmlns:sch="http://www.ascc.net/xml/schematron"
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
targetNamespace="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app" elementFormDefault="qualified"
version="4.0">
  <!-- 外部参照 -->
  <xsd:import namespace="http://www.opengis.net/gml/3.2"
schemaLocation="http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO_19136_Schemas/gml.x
sd"/>
  <xsd:include schemaLocation="Ksj_Common.xsd"/>
  <!-- 基底要素 -->
  <xsd:element name="Dataset">
    <xsd:complexType>
      <xsd:complexContent>
        <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
          <xsd:choice minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
            <xsd:element ref="gml:AbstractGML"/>
            <xsd:element ref="gml:CompositeValue"/>
          </xsd:choice>
        </xsd:extension>
      </xsd:complexContent>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>
  <!-- 要素定義 -->
  <xsd:element name="UnderpopulatedArea" type="ksj:UnderpopulatedAreaType"
substitutionGroup="gml:AbstractFeature"/>
  <xsd:complexType name="UnderpopulatedAreaType">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>過疎地域</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:complexContent>
      <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
        <xsd:sequence>
```

```

<xsd:element name="bounds" type="gml:SurfacePropertyType">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>範囲</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="underPopulationId" type="xsd:string">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>過疎ID</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="administrativeAreaCode" type="gml:CodeType">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>行政区域コード</xsd:documentation>
    <xsd:appinfo>
      <gml:defaultCodeSpace>AdministrativeAreaCode.xml</gml:defaultCodeSpace>
    </xsd:appinfo>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="prefectureName" type="xsd:string">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>都道府県名</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="subPrefectureName" type="xsd:string" minOccurs="0">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>支庁名</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="govDecreedCityName" type="xsd:string" minOccurs="0">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>郡・政令都市名</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="cityName" type="xsd:string">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>市区町村名</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>

```

```

    </xsd:annotation>
  </xsd:element>
  <xsd:element name="orgCityName" type="xsd:string">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>原典市区町村名</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
  </xsd:element>
  <xsd:element name="formerCityName" type="xsd:string" minOccurs="0">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>旧市町村名</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
  </xsd:element>
  <xsd:element name="depopulatedTypeCode" type="ksj:DepopulatedTypeCodeType">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>過疎区分コード</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
  </xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:extension>
</xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="UnderpopulatedAreaPropertyType">
  <xsd:sequence minOccurs="0">
    <xsd:element ref="ksj:UnderpopulatedArea" />
  </xsd:sequence>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup" />
  <xsd:attributeGroup ref="gml:OwnershipAttributeGroup" />
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="UnderpopulatedAreaMemberType">
  <xsd:complexContent>
    <xsd:extension base="gml:AbstractMemberType">
      <xsd:sequence minOccurs="0">
        <xsd:element ref="ksj:UnderpopulatedArea" />
      </xsd:sequence>
      <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup" />
    </xsd:extension>
  </xsd:complexContent>

```

```

</xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
<xsd:simpleType name="DepopulatedTypeCodeType">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>過疎区分コード</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
  <xsd:union memberTypes="ksj:DepopulatedTypeCodeEnumType
ksj:DepopulatedTypeCodeOtherType"/>
</xsd:simpleType>
<xsd:simpleType name="DepopulatedTypeCodeEnumType">
  <xsd:restriction base="xsd:string">
    <xsd:enumeration value="1">
      <xsd:annotation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:description>過疎市町村</gml:description>
        </xsd:appinfo>
      </xsd:annotation>
    </xsd:enumeration>
    <xsd:enumeration value="2">
      <xsd:annotation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:description>過疎地域とみなされる市町村(33条第1項)</gml:description>
        </xsd:appinfo>
      </xsd:annotation>
    </xsd:enumeration>
    <xsd:enumeration value="3">
      <xsd:annotation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:description>過疎地域とみなされる区域(33条第2項)</gml:description>
        </xsd:appinfo>
      </xsd:annotation>
    </xsd:enumeration>
  </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
<xsd:simpleType name="DepopulatedTypeCodeOtherType">
  <xsd:restriction base="xsd:string">

```

```
<xsd:pattern value="other: ¥w{2,}" />  
</xsd:restriction>  
</xsd:simpleType>  
</xsd:schema>
```